

# 新基地建設反対名護共同センターニュース

## “辺野古”を容認したわけではない 市長選後も「違法工事は中止を！」と抗議展開



名護市長選は大変残念な結果に終わりました。しかし、この結果は辺野古新基地が容認されたわけではないことは明瞭です。出口調査では、投票した人の64.6%が「辺野古ノー」の意思を示していました。しかし、当選した候補は「辺野古への字も言わない」、メディアや学生らの公開討論会への参加も拒否するなど新基地建設の是非を争点化することを避け、逃げ回った結果でした。

選挙結果が出た翌日以降もゲート前では先週までと同様、非暴力で座り込みの抗議行動が展開されています(写真)。「勝つ方法はあきらめないこと」。沖縄県民があきらめなければ新基地を造ることはできません。たたかいは、これからです。

新たな闘いはこれから始まる

### 投票日の地元紙出口調査から

4日投票の名護市長選挙で沖縄タイムスと琉球新報、共同通信の3社は共同で出口調査を行いました。

### 辺野古移設「反対」64.6%

- 最大の争点になった普天間基地の辺野古移設に  
「反対」 49.4%、  
「どちらかという反対」 15.2% **合計 64.6%**  
「賛成」 13.3%  
「どちらかという賛成」 11.7% **合計 25.0%**
- もっとも重視した政策  
「**辺野古移設**」50.1%、「雇用経済政策」13.5%  
「教育・子育て支援」12.1%、「医療福祉の充実」8.0%、「観光振興」1.0%と続いた。



## 「教え子を戦場に送らない」退職教員が沖縄支援に

### 枚方退教 22人で辺野古～高江へ

大阪・枚方市の退職教員22人が6日、新基地建設反対名護共同センターを訪れ、パワーポイントで約1時間沖縄に基地闘争を学習しました。この後、ヘリ基地反対協の仲本興真事務局長に連帯・支援カンパを手交し、午前中は辺野古ゲート前での座り込み行動を展開。午後は大浦湾を視察し、高江ヘリパッド反対のたたかいをすすめる住民の会のテントを訪問しました。

ツアー参加者の元教員は、「私たちは、“教え子を戦場に送らない”の気持ちで教員を勤め上げました。退職してもその思いは変わりません。安倍政権のもとでの改憲を阻止するため、今日学んだことを力に沖縄の基地闘争と連帯して運動を発展させたい」と話していました。

